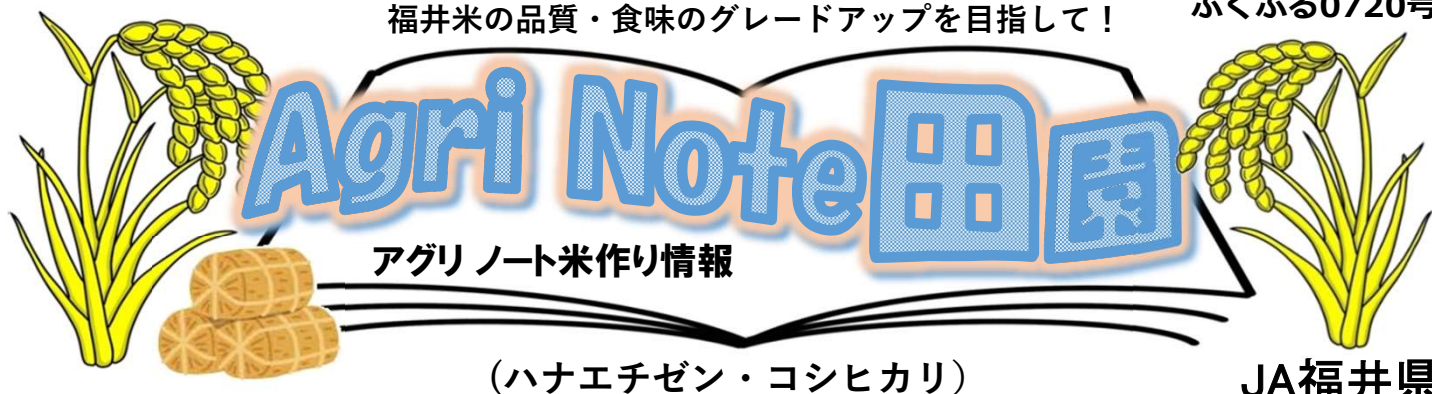


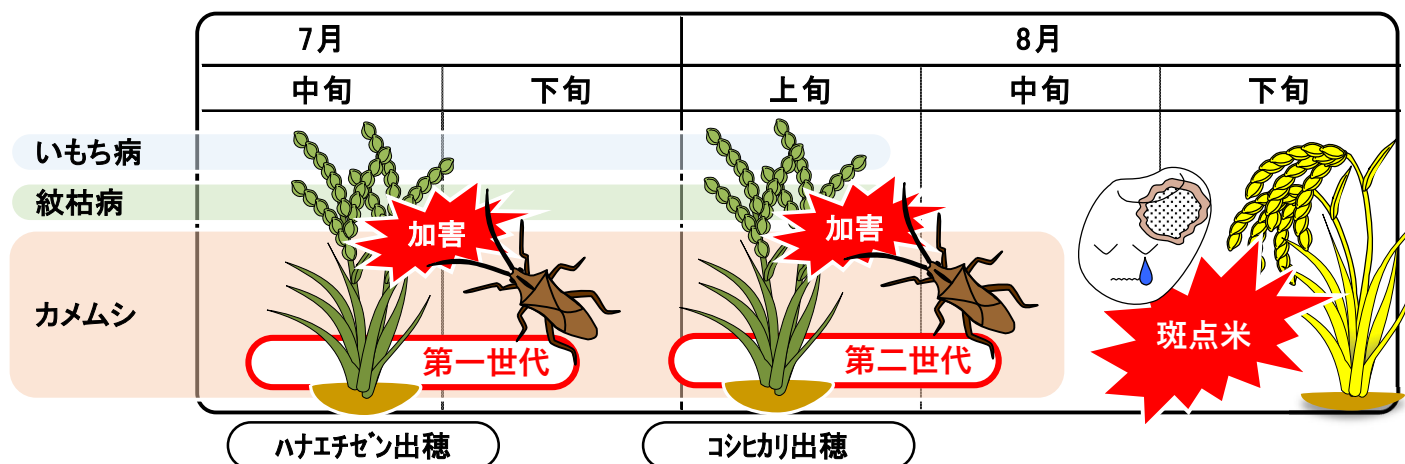


これからの水稻管理で重要なのは、病虫害防除と水管理です。稲がいよいよ穂や籾をつけるタイミングに入りますので、本田での管理には十分に注意しましょう。本田防除・適切な栽培管理を行い、収穫量の確保、品質の維持・向上に努めましょう。今後も厳しい暑さが予想されます。作業中は、こまめな休憩と水分補給で熱中症対策を行いましょう。

1.本田防除について

★稲の生育と病虫害防除

いもち病、紋枯病、カメムシ対策のために薬剤防除を実施しましょう。



①カメムシ類

出穂期以降、カメムシによる吸汁被害が発生します。育苗箱施薬に加えて、本田防除(「穂揃期」「傾穂期」の2～3回)を行いましょう。

②いもち病

近年、梅雨期間の日射量の増加に伴い発生面積が減少していますが、発生が見られた場合には、直ちに防除を行いましょう。

③紋枯病

近年発生が増加、玄米の登熟や品質に影響を及ぼします。薬剤防除は、箱施薬を基本とし、症状が著しい場合は、本田防除を行いましょう。

★カメムシ防除の徹底

出穂までは、畦畔管理(草刈り)で生息密度を下げる



基幹防除

穂揃期

圃場の穂が出そろったころ

傾穂期

穂の登熟が進み、穂が傾くころ

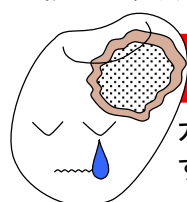
臨機防除

仕上げ

カメムシ多発時

2.米の等級について

下記のような症状が発生すると等級が下がってしまいますので、適正管理に努め発生を少なくしましょう。



①斑点米

カメムシが、もみを吸汁することで発生。

対策：病虫害防除

- カメムシの進入を防止するため、雑草処理を行いましょう。
- 防除の徹底(2～3回)



②乳白米

高温条件で発生。

対策：間断通水

- 間断通水は3～5日間隔
- 田面に水(水位2～3cm)が行き渡ったら自然落水
- 溝切りの底や田面の足跡の水が無くなるまえに入水す



③同割れ米

早期落水した場合や、刈り遅れた場合に発生。

対策：適期刈取

- 刈取7日前まで間断通水
- 適期刈取(刈り遅れ防止) 出穂日を記録し、刈取り開始日の目安を確認